

生体肝移植肝動脈再建における左右肝動脈の選択が移植成績に及ぼす影響に関する研究

九州大学第二外科において1997年5月から2009年3月までの右葉を用いた生体肝移植を受けた方を対象

【はじめに】進行した肝硬変、劇症肝炎、一部の代謝性疾患は現在のところ肝移植でしか救命できません。日本においては脳死肝移植症例は極めて少なく、肝移植のほとんどは生体肝移植です。成人間生体肝移植では移植する肝臓の容積の必要性から肝全体の約6割を占める右葉がしばしば選択されます。肝移植では肝動脈再建は必須で、生体肝移植では通常レシピエントの右あるいは左肝動脈が肝動脈再建に使用されます。肝動脈再建後は胆道再建を行います。最近ではグラフトの右肝管とレシピエントの肝管を吻合する胆管-胆管吻合を第一選択としています。解剖学的にグラフトの右肝動脈はレシピエントの右肝動脈と吻合することがよいと考えられます。しかしながら、右肝動脈はレシピエント胆管の背側を走行し、しばしばこの胆管に栄養血管を分枝しています。レシピエント胆管の血流を温存するために、右肝動脈と胆管の間の剥離を行うことは極力避けなければなりません。このためレシピエントの右肝動脈は自由度がなく、胆管-胆管吻合後にしばしば吻合した動脈に屈曲が生じることを経験してきました。動脈の屈曲は移植肝への動脈血流障害を生じ、移植後の成績に悪影響を与えることが予想されます。

【研究内容】今回の研究ではこれまでに九州大学病院で行った肝右葉を用いた生体肝移植症例で、肝動脈再建に右あるいは左肝動脈を用いた症例間で合併症の発生率あるいは生存率に差があるのかどうかを後ろ向きに検討することを目的としています。

【患者さんの個人情報の管理について】本研究の実施過程およびその結果の公表(学会や論文等)の際には、患者さんを特定できる情報は一切含まれません。もし対象者となることを希望されない方は、下記連絡先までご連絡ください。

【研究期間】研究を行う機関は承認日から2010年10月31日です。

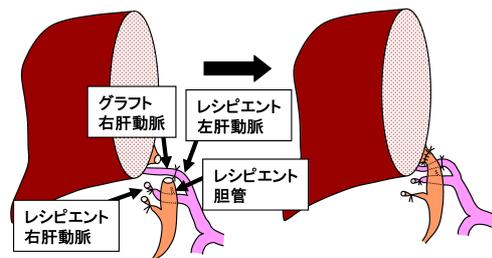
【医学上の貢献】この研究により生体肝移植の手術成績向上につながるものと考えられます。

【研究機関・組織】

九州大学大学院 消化器・総合外科学 教授 前原喜彦
九州大学病院 第二外科 助教 内山秀昭 (責任者)

連絡先: 〒812-8582 福岡市東区馬出3-1-1
Tel: 092-642-5466
内山 秀昭

レシピエント左肝動脈を用いた肝動脈再建



レシピエント右肝動脈を用いた肝動脈再建

